

## 外務省での研修を通して

平成31年2月  
外交実務研修員 岡田 悠生  
(北海道から派遣)

### 1 はじめに

私は、平成29年4月に北海道から外務省に派遣され、現在欧州局日露経済室で勤務しております。2年間の本省勤務も残りわずかとなったところ、この度、外交実務体験記に寄稿する機会をいただきましたので、当室での勤務を振り返って御紹介したいと思います。

### 2 外務省に赴任するまで

北海道では、地域医療や地域政策(地域の連携体制づくり、離島振興等)を担当していました。北海道という土地柄、ロシア人医師を招いての医療交流事業や、サハリン州との文化面での交流に間接的に携わる機会はありませんでしたが、私自身は、国際的な知識や視点を全く持ち合わせておらず、ロシア語はおろか英語も満足に話せないという状況であり、外務省という外交の最前線での勤務を告げられた時には、先行きの見えない不安感に襲われたことを思い出します。

### 3 日露経済室での業務

日露経済室では、2017年5月に安倍総理からプーチン大統領へ提示した8項目の「協力プラン」の推進のため、日露間の経済プロジェクトの具体化に向けた作業を進めています。私も、自らの担当である「運輸」「産業多様化」といった分野において、日本企業が行うロシアビジネスのフォローを日常的に行うとともに、両国の首脳や大臣等の要人が往来する際の事務的な後方支援(logistics, いわゆるロジ)に従事しています。

また、当室では日露の地域間交流を所管しており、地理的にロシアに近い北海道の案件は室内でもよく話題にあがります。現在北海道は、サハリン州、サンクトペテルブルク市等との交流を推進しており、直近では昨年夏にサンクトペテルブルク市知事を筆頭とした同市代表団が来道、11月には北海道副知事代表団がサンクトペテルブルクを訪問、また今月上旬には北海道知事がサハリン州を訪問するなど、積極的な往来が行われています。私自身が外務省の立場から北海道関係の業務に携わることはあまり多くはないのですが、例えば北海道とロシアの地域間で覚書を交わす際の内容確認等を行うこともあります。

日露の民間企業間や政府・当局・地域間で結ばれた覚書や契約等の文書は、首脳会談の際に「成果文書」として発表しており、2016年12月のプーチン大統領訪日時

から今年1月の安倍総理訪露までに、170件以上の民間プロジェクト、300件以上の署名文書(民間、政府・当局・地域間)が生まれており、民間プロジェクトは約半数以上で具体的な取組が始まっています。

(参考)在ロシア日本大使館－8項目の「協力プラン」

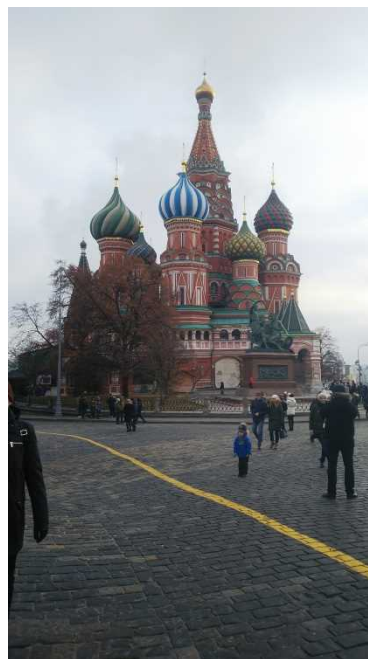
<https://www.ru.emb-japan.go.jp/economy/ja/index.html>

#### 4 2年間の勤務を通して

上述の民間プロジェクト及び署名文書数が示すように、私が本省で勤務した2年間は、経済を含めた日露間の協力関係が進展した時期であり、この間安倍総理の5度の訪露をはじめ、大臣レベルでの往来も頻繁に行われました。

日露経済室に着任した一昨年4月は、ちょうど安倍総理がロシアへ訪問する直前のタイミングで、執務室全体がフルスロットルで稼働している時期でした。右も左も分からないまま、ただ指示された仕事の期限だけが迫るといったことが続き、本当にここでやっていけるのかと大変意気消沈しました。

ですが、日露関係の前向きな潮流に乗っかり、2度のモスクワ出張を含め数多くのロジを経験させていただきながら、また親切な上司・同僚や関係省庁・企業のカウンターパートにも恵まれ、今は何とか2年間の本省研修を乗り切れそうな安堵感を感じています。ただ、「外交的な視点から物事を考える」「ロシア語を覚える」という2点については、あまり私個人の理解が進んでおらず、今後も引き続き努力が必要と自認しております。



#### 5 終わりに

春からは在外公館へ赴き、引き続き2年間の研鑽を積む予定です。北海道職員として、外務省での計4年間の経験を地域のためにどの様な形で還元できるか正直まだ分かりませんし、言葉の問題もあり現地での生活は不安も大きいところです。しかしながら、私にとって2度とない貴重な経験であることには変わりないので、将来北海道の発展に生かせるよう、多くのことを吸収し見聞を広めてきたいと思います。

(了)